

**令和元年度 指定管理者  
事業評価 報告書**

(よこはま動物園、野毛山動物園・野毛山公園及び  
金沢動物園・金沢自然公園)

令和2年11月

**横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会**

## 1 評価対象

対象施設	指定管理者	指定期間
よこはま動物園	公益財団法人 横浜市緑の協会	H28. 4～R8. 3
野毛山動物園及び野毛山公園		
金沢動物園及び金沢自然公園		

## 2 評価方法

評価は、令和2年7月及び8月に調査員（環境創造局動物園課職員）と評点員（環境創造局公園緑地管理課）が基本協定書、事業計画書、仕様書、維持管理基本水準書、年度実施協定書及び年度実施計画書等に基づき書類の審査、ヒアリング、現地確認等を実施した結果を本委員会で審査しました。

また、指定管理者の取組姿勢について、本委員会で直接、指定管理者にヒアリングを実施し、採点を行いました。そのうえで、調査員・評点員の採点及び本委員会での採点を合わせ、評価を決定しました。

## 3 事業評価経過

### (1) 調査員・評点員による採点（ヒアリング・現地調査含）

よこはま動物園 : 令和2年7月31日（金）

野毛山動物園 : 令和2年7月27日（月）

金沢動物園 : 令和2年8月12日（水）

協会本部 : 令和2年8月6日（木）

### (2) 横浜市立動物園等指定管理者選定評価委員会

令和2年9月9日（水）

調査員・評点員による採点結果検討

指定管理者へのヒアリング、評価審査

令和2年11月11日（水）

評価確定

## 4 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 名簿（敬称略）

委員長：小宮 輝之〔元恩賜上野動物園長〕

委員：浅井 紀代子〔税理士、さくら共同会計事務所代表社員〕

委員：齊藤 毅憲〔横浜市立大学名誉教授〕

委員：佐渡友 陽一〔帝京科学大学講師、市民ZOOネットワーク代表理事〕

委員：間曾 さちこ〔株式会社かなん代表、元財団法人自然環境研究センター上席研究員〕

## 5 評価結果

採点点数	全体 (%)	評価
475.5 点 / 600 点	79.25%	<b>B</b>

【参考】評価に関する点数の考え方については、次のとおり

S評価	90%～100%（概ね 540 点～600 点）	極めて優秀（要求水準を大きく上回る）
A評価	80%～89%（概ね 480 点～539 点）	優秀（要求水準を上回る）
B評価	60%～79%（概ね 360 点～479 点）	良好（要求水準の下限を保持）
C評価	59%～（概ね 359 点以下）	不良（要求水準の下限を満たさない）

## 6 全体講評

令和元年度は、横浜市立動物園における指定管理者制度の第3期目となり、10年間の指定管理期間の4年目でした。今回の事業評価の結果、優秀な取組もあり、全体としては良好な管理運営が行われていたものと認められます。

今期から、3つの目標（入園者数、国際的な繁殖計画への参画・連携、環境学習）を掲げて業務に取り組んでいます。令和元年度の入園者数については、様々な取組の効果もあり入園者増も見込まれていましたが、秋の台風による臨時閉園や新型コロナウイルス対策による約1か月の閉園などの影響もあり残念ながら目標に対して大幅な減でした。今後も続く新たな生活様式に対応するべく、ユーザーに響く動物園の魅力を変えて分析し、継続して発信し続けることと、入園制限がかかりにくい平日を中心とした集客が確保できるようなアイデアや運営の工夫を指定管理者には期待します。

国際的な繁殖計画への参画・連携については、目標10種に対して実績が9種となり目標からわずかに下回る結果となりました。これまでの参画・連携状況や過去に締結した協定や関係機関との協力関係などを踏まえ、協会としての能力を十二分に発揮できるよう、本部と3園が一体となり横断的な取組を強化するよう引き続き期待します。

環境学習については、改善目標件数を上回る実績について評価します。今後は、来園者の様々なニーズに合わせて内容の改善を図るとともに、経営資源として戦略的に検討、改善に注力することを期待します。

管理運営全般では、来園者要望を改善に結びつけられ、安定した執行が図られています。

維持管理業務では、引き続き来園者が快適、安全に利用できるような適切な維持管理を続けることに加え、展示場の魅力アップにつながる改修と効果的なPRを組み合わせるなど、潜在的寄附者ともなりうるリピーター確保に戦略的に取り組むことを期待します。

人材育成については、今後の動物園運営の核となる人材を育成するための体系的な研修計画を策定・実施することを引き続き求めます。

飼育管理全般について、動物福祉の観点からハズバンドリートレーニングやエンリッチメントを実施した様々な取組については昨年度に引き続き評価します。また、ヘサキリクガメの飼育技術に対する国際的評価を得たことや累代繁殖の実績などについて評価します。

動物逸走未遂の発生後に、施錠確認の方法を改良した点は評価できますが、実施した研修が業務に生きるよう、現場をフォローする取組を強く求めます。また、Twitterのアカウント喪失は重大事故として猛省し、組織的に、効果的に機能する再発防止対策を強く求めます。動物園の根幹業務である飼育分野においては、動物案内のサインのメンテナンスや更新など来園者に対するホスピタリティの目線を強く持ち、積極的な改善姿勢を望みます。

今後も課題の適切な分析と対応を継続しつつ、10年間の指定管理期間という長期的な視点のもと、残る6年で達成すべき目標やプライオリティを明確にし、戦略的に日々公益を実現していくことを期待します。

## 7 委員意見

### 1 飼育・繁殖に対する取組

- ・ヘサキリクガメの飼育技術に関する国際的な評価や、担当をまたいでの累代飼育の成功などの技術力は評価できる。(野毛山)
- ・緑の協会としてインドライオンの導入やタイ王立動物園機構との協定など、国際的な積極的働きかけは評価できる。
- ・ハズバンダリートレーニングなど動物福祉の視点での3動物園の積極的な取組について評価できる。
- ・動物福祉の取組をどのようにPRし、新たなファンのすそ野を広げていくか戦略的に検討していくことを求める。

### 2 調査・研究に対する取組

- ・一年で5本の投稿論文が掲載され、うち1本がJAZAの表彰(\*)を受けたことは、国内の動物園を牽引する実績として評価する(よこはま・金沢) \*「初期の人工哺乳から自然哺乳への切り替えに成功したオオツノヒツジの一例」がJAZAの技術者研究表彰を受賞

### 3 環境教育に対する取組

- ・動物園における環境教育の目的や成果の測り方を明確にし、目指すべき目標と達成に向けての戦略の提示を求める。
- ・様々な来園者に向けてどのような教育活動を展開するのか、最終的に経営資源にどのように結び付けるかという視点を含めた戦略の検討を求める。

### 4 利用者サービスの向上及び利用者増に向けた取組

- ・GWの渋滞回避を目的とした中山駅・ゾーラシア間のシャトルバス運行やナイトゾーラシアの出庫渋滞回避を目的とした2車線出庫の試行について評価する。(ゾーラシア)
- ・イヌフェス!などの新規企画など取り組みを評価する。(ゾーラシア)
- ・プロポーザルによる物販店舗の新規事業者を選定し、休業をせず店舗運営を開始したことは、今後の成果を含めて期待する。(ゾーラシア・野毛山)
- ・コロナウィルス拡大防止対策のため閉園期間中のSNSからの情報発信が増加したことは評価する。

### 5 人材育成に対する取組

- ・担当異動後もヘサキリクガメの繁殖成功したことによる後任育成の実績を評価する。(野毛山)
- ・IUCNヘサキリクガメワーキンググループに招聘されたことを評価する。(金沢)

※経験年数の浅い飼育職員への研修プログラムの充実や、専門分野ごとの研修プログラムなど、体系的な研修計画の策定、実施を検討、提示すること。(継続指摘事項)

### 6 事業効果を高める取組

- ・ガイドブックの3園合本形式による発行や(3園・調整課)民間企業との連携企画の実施について評価する。(調整課)
- ・クラウドファンディング等、動物園の価値を高めかつ多様な財源確保に実績を上げられるよう取り組むことを期待する。

※戦略的な組織体制のもと3動物園が有機的に連携した動物園運営の効果を示すこと。(継続指摘事項)